智を立て、同十月二十八日に佐渡國へ著ぬ。十一月一日に❶六郎左衛門が家❷のうしろみの家より塚原と申山野の中に、洛陽の蓮臺野のやうに死人を捨る所に一間四面なる堂の佛もなし。❸上は❹いたま(板間)あはず、四壁はあばらに、雪ふりつもりて消る事なし。かゝる所に、しきがは(敷皮)打しき裳うちきて、夜をあかし日をくらす。夜は雪❺電・雷電ひまなし。❻晝は日の光もさゝせ給はず。❼彼李陵が胡國に入てがんかうくつ(巖崛)にせめられし、法道三藏の徽宗皇帝にせめられて面にかなやき(火印)をさゝれて、江南にはな(放)たれし❽も只今とおぼゆ。あらうれしや。檀王は阿私仙人にせめられて法華經の功德を得給き。不輕菩薩は上慢の比丘等❾の杖にあたりて一乘の行者といはれ給ふ。今日蓮は末法に生て妙法蓮華經の五字を弘てかゝるせめ(責)にあへり。佛滅度後二千二百餘年❿が間、恐は天台智者大師も一切世間多怨難信の經文をば行じ給はず。數數見擯出の明文は但日蓮一人也。一句一偈我皆與授記は我也。阿耨多羅三藐三菩提は疑なし。相模守⓫殿こそ善知識よ。平左衛門こそ提婆達多よ。念佛者は瞿伽利尊者、持齋等は善星比丘。在世は今にあり、今は⓬在世なり。法華經の肝心は諸法實相ととかれて本末究竟等とのべられて候は是也。摩訶

❶〔に〕―㊥　❷〔家の〕―㊥　❸し＝く㊥　❹いたまあはず＝ふかず㊥不耳(解)　❺〔雪電〕―㊥〔電〕―(解)　❻し＝く㊥　❼李陵＝李呂占㊥　❽〔も〕―㊥　❾の杖にあたり＝につゐをあたり㊥　❿が＝の(解)　⓫〔守〕―㊥　⓬今は＋(則)㊥

止観第五云、行解既勤　三障四魔紛然　競起文。又云、如猪揩❶金山　衆流入海　薪熾於火　風益求羅耳等云云。釋の心は法華經を教のごとく機に叶ひ時に叶て解行すれば、七の大事出來す。其中に天子魔とて第六天の魔王、或は國主或は父母或❷は妻子或は檀那或は惡人等について、或は隨て法華經の行をさ(支)え、或は違してさうべき事❸也。何れの經❹をも行ぜよ、佛法を行ずるには分分に隨て留難❺あるべし。其中に法華經を行ずるには强盛にさうべし。法華經ををしへの如く時機に當て行ずるには殊に難あるべし。故に弘決八云、若知衆生不出生死不慕佛乘　魔於是人猶生親想等云云。釋の心は人善根を修すれども、念佛・眞言❼・禪・律等の行をなして法華經を行ぜざれば、魔王親のおもひをなして、人間につきて其人をもてなし供養す。世間の人に實の僧と思はせんが爲也。例せば國主のたとむ僧をば諸人供養するが如し。されば國主等のかたきにするは、既に正法を行ずるにてある也。釋迦如來の御ためには提婆達多こそ第一の善知識なれ。今の世間を見るに、人をよくなす(成)ものはかたうど(方人)よりも强敵が人をばよくなしけるなり❽。眼前に見えたり。此鎌倉の御一門の御繁昌は義盛と隱岐法皇ましまさずんば、爭か日本の主となり給べき。されば此人々は此御一

❶揩＝搖㊀㊁　❷〔或は妻…ついて〕17字―㊀　❸〔事〕―㊀　❹經＝教㊁　❺〔留〕―㊀　❻〔其…難あるべし〕46字―㊀　❼〔眞言〕―㊁　❽け＝た㊀